

授業科目名	心理学	単位認定者	西村昭徳
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義を中心に授業を行う(視聴覚教材やワークを用いて可能な限り体験的に学習する)
科目の目的	心理学の基礎を学ぶと同時に、心理学的な視点から自己理解・他者理解を深める
学習到達目標	1.心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する 2.心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る 3.心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす
関連科目	臨床心理学 発達心理学 カウンセリング
成績評価方法	出席状況、受講態度・意欲、期末試験を基にして総合的に評価を行う

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	心理学を学ぶ意義	医療と心理学、心理学の領域	<b>【精神看護学】</b> 目標2 1.精神看護の基本概念 B.精神分析モデル a)フロイトの発達論、b)転移感情、c)自我の防衛機制 <b>【必修問題】</b> -1人間の特性 A 人間と欲求 a) 基本的欲求、b)社会的欲求 <b>【精神看護学】</b> 目標1 1.精神の健康 B.精神の機能と障害 a)意識と意識障害、b)知能と知能障害、c)知覚と知覚障害 d)思考と思考障害、e)感情と感情障害、f)意欲と意欲障害、g)記憶と記憶障害、h)認知と認知障害 <b>【必修問題】</b> 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 2人間の成長と発達 B 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 e) 母子関係 <b>【精神看護学】</b> 目標1 1.精神の健康 A 精神の構造 a)意識・前意識・無意識 b)イド・自我・超自我 <b>【成人看護学】</b> 目標1 2.成人に特有な健康問題の特徴 C 生活ストレスに関連する健康障害 a)ストレスの種類と生理的適応、b)生活ストレスと健康障害	
2	物理的世界と心の世界	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性		
3	記憶と注意の心理	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、高齢者の記憶 記憶の障害、ワーキングメモリと注意機能		
4	学習のメカニズム	古典的学習、オペラント学習、観察学習		
5	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、社会的欲求、欲求の階層、 欲求不満と葛藤		
6	心理学的性格論	性格とは何か?、性格の類型論と特性論		
7	心理学的性格論	性格検査とその活用		
8	成長と発達の心理	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論		
9	集団行動の心理	集団の分類、リーダーシップ		
10	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、寛大効果		
11	健康と異常	健康の定義、ポジティブ心理学		
12	臨床心理学	ストレスと心の病理		
13	カウンセリングと心理療法	カウンセリングの理論と方法、看護におけるカウンセリングマインド		
14	カウンセリングと心理療法	医療現場における様々な心理学的介入		
15	期末試験			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<b>【基礎看護学】</b> 目標 2 1. 共通基本技術 A 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション技術、b) カウンセリング技術、c) グループワーク、グループダイナミクス B 人間の成長を促すための技術 a) 教育、b) 相談・指導  <b>【小児看護学】</b> 目標 1 2. 子どもの成長と発達 C. 心理社会的発達	

教科書	「心理学・臨床心理学入門ゼミナール」(北大路書房)
参考書	授業中に適宜紹介する

授業科目名	生命倫理	単位認定者	森川 功
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	生命倫理の基本原則について学び、具体的な事案の倫理的是非について第三者的な立場から論じることができるようになるとともに、人の存在価値に関する概念的対立について学び、具体的な事案の当事者として自己の主張を論理的に展開することができるようになることを目的とする。
学習到達目標	1. 現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2. 基本的な倫理原則について説明できる。 3. 具体的な事案の倫理的是非について少なくとも第三者的な立場から論じることができる。
関連科目	看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、生命科学、医療民俗学、法学
成績評価方法	レポート(複数回提出)の成績および授業への貢献度(質疑応答など)により総合的に判断する。履修者の理解の程度によってはテストを実施する場合もあり得る。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生命倫理とは	倫理と道徳 生命倫理学とは 生命倫理学の成立に影響した数々の出来事 ナチスによる人体実験 ニュールンベルク綱領 タスキギー梅毒研究 ウィローブルック研究 ユダヤ慢性病病院事件 何故にいま生命倫理学なのか	必修問題  4 看護の倫理 A 基本的人権の擁護 a 個人の尊厳 b 患者の権利 c 自己決定権	
2	倫理理論と種々の倫理原則	倫理理論 直観主義 義務尊重主義 結果尊重主義 権利重視の倫理 種々の倫理原則(看護倫理を含む)	基礎看護学 目標1 1 看護の基礎となる概念 E 看護倫理 a 患者の権利擁護 b 患者のプライバシー保護 c 看護師の倫理規定 d 職業倫理	
3	基本倫理原則(1)	侵害回避の原則 ヒポクラテスの誓い 避けるべき害悪 ガン告知と専門家の守秘義務 二重効果の原則 医療行為の是非 恩恵の原則 互惠の確保 恩恵を与える義務に対する制約 義務を負うか否かを判断するための考慮事由 パターナリズム 最善の利益 生体的な善とその他の善	必修問題  5 保健師助産師看護師法 A 看護職員の業務と義務 c 守秘義務	
4	基本倫理原則(2)	自律の原則 自律とは 自律を行使するために必要とされる能力 イマニュエル・カント 医療に関する観念としての自由 情報の開示 事前指示書 リビング・ウィル カレン・アン・クインラン事件	在宅看護論 目標1 3 在宅看護の特徴 A 生活の自立支援 b 自己決定  老年看護学 目標2 1 老年看護学の基本的考え方 C 老年看護における	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
5	基本倫理原則(3)	持続的代理決定委任状 ナンシー・クルーザン事件 自律の原則の優先性  公正の原則 資源配分 マクロな配分とミクロな配分 資源の稀少性 恩恵(利益)と害悪(負担)の配分 公正の概念 公正な資源配分に関する理論 功利主義理論 マクシミン理論 平等主義理論 臓器移植における患者の選抜を事例として	倫理的課題 a 自己決定 6 高齢者の終末期の看護 A 終末期にある高齢者の看護 b 死の迎え方の意向(リビング・ウィル)と対応  社会保障制度と生活者の健康 目標4 1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 A 医療サービスの供給体制 i 臓器移植法  必修問題 4 看護の倫理 A 基本的人権の擁護 d インフォームド・コンセント	
6	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントに関する種々の誤解 インフォームド・コンセントの概念 治療法選択の段階でのインフォームド・コンセント インフォームド・コンセントの構成要素 患者による理解と決定のための「患者の意思能力」 重要情報の「医師による開示」 医学的処置の「医師による推薦」 開示された情報などの「患者による理解」 医学的処置を支持する「患者の決定」 支持する決定における「患者の自由意思」 医学的処置の実行に関する「患者による授権」	精神看護学 目標3 1 精神医療看護の歴史と人権・倫理 B 患者の権利 a インフォームド・コンセント  必修問題 1 人間の特性 B 患者の特性 a QOL(クオリティ・オブ・ライフ) 2 人間の成長と発達 A 胎児期 a 形態的発達	
7	生命の神聖さ(SOL)と生の質(QOL)	人とはいかなる存在であるのか 生命とその属性 SOLの概念 QOLの概念 SOL対QOL	母性看護学 目標1および2 2 人間の性と生殖 A ヒトの発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子 D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医療  成人看護学 目標3 5 終末期の看護 A 緩和ケア b 疼痛コントロール c QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の保証	
8~15	個別的な論題および種々の事案の紹介と検討	個別的な論題については履修者が希望するものを選びあげる。特に希望がない場合には、 1) 高齢患者による治療拒否 2) 植物状態患者(死の定義) 3) 安楽死 4) 生殖補助医療 5) 出生前検査・診断 6) 新生児医療 などを論題として採りあげ、種々の事案の倫理的是非の検討を行なう予定である。	老年看護学 目標2 C 老年看護における倫理的課題 b 資源の公正な配分 c 高齢者差別 d 虐待・身体拘束	

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(じほう、2002年) その他については、講義中に適宜指示する。

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	本授業では、「教育」について一般的・基本的事項を講義する。 意図的な「教育」は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の場において教育的な配慮が必要であることは言うまでもない。教員や親としてはもとより、医療従事者にとっても必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論など）を理解し、広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。 青少年の問題行動について関心をもち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができるようにする。
関 連 科 目	生活学 家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	教育	「教育」を考える 個の資質・家庭・学校・社会・制度		
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」		
3	学と習 (動機付け)	「覚える」「分かる」 動機づけ(外的・内的)		
4		事例研究		
5	心の教育	宗教的心情の教育 道徳教育		
6	発達と教育	教育の適時性 胎児期・乳児期		
7		児童期・青年前期		
8	学校教育 学校教育の効果	教育内容 教育方法 事例研究		
9	教育制度	「量の教育」から「質の教育」へ 「知識」から「学び方」へ 教育課程		
10	ゆれる教育改革	現行の教育制度 教育制度の変遷 「生きる力」と「問題解決の能力」		
11	教育関係法	教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係		
12	学校不適應	学校不適應・いじめ・引きこもり 事例研究		
13	特別支援教育	心身に障害のある児童 発達に偏りのある児童		
14		インテグレーション・・・		
15	定期試験			

教 科 書	プリントによる
参 考 書	授業時に紹介

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	医療文化のあり方を考えるときに、誕生や死に際して行われる儀礼や慣行についての基礎的知識を持つことは大変重要であると思う。本授業では誕生、病気、健康、魂、死をキーワードに、身近な事例を紹介しながら日本人の「いのち」観について、分かりやすい講義を展開する予定である。
学習到達目標	(1) 誕生民俗の過去と現在のあり方を学ぶ。 (2) 病気・健康の歴史と文化を学ぶ。 (3) 死の民俗に関する儀礼と慣行を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目 生命倫理 家族学
成績評価方法	定期試験と出席状況で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	(1) 誕生民俗と生命観  (2) 健康と医療  (3) 死者儀礼と死後の世界	元気と病気(「養生訓」の紹介) 大安退院問題(六曜の知識) 旧暦と干支(暦の知識、十干十二支の知識) 丙午俗信と出産行動(俗信と近代医療) 胎児の生命(産死の身二つ慣行の分析) 産着と魔除け(魔物と魂の問題) 名付けと人生(悪名と仮り名の習俗) 双子観の変化(出産環境と医療) 男性産婆がいた(産婆の技術と呪術) 健康と癒し(健康飲料・健康ブーム) 急病人搬送の民俗(医療と習俗) 長寿と厄年(長寿銭と長寿観) 看取りと臨終(介護問題と家族) 死の判定とタマヨビ(医療化以前の伝統文化) あの世とこの世(死者儀礼と現代社会)		

教科書	「誕生と死の民俗学」 板橋春夫著 (吉川弘文館)
参考書	

授 業 科 目 名	健 康 ス ポ ー ツ 理 論	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストを中心に講義する。講義内容の理解を深めるために、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連するスポーツや健康の話題について報告する。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科 目 の 目 的	看護師の資格を目指す学生に対して、スポーツ科学および運動生理学の側面から身体におよぼす運動の効果、健康づくりを实践するための理論について学習する。
学 習 到 達 目 標	運動における生体の生理的变化（筋・神経系、呼吸循環系、肥満・代謝系など）の概論が理解できる。教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関 連 科 目	生理学、解剖学
成 績 評 価 方 法	定期試験・出席点の総合評価とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ガイダンス	講義概要・運動生理学の学習の意義について		
2	筋の機能と役割	筋線維の種類とその特徴		
3	障害とスポーツ	車いすバスケットボール		
4	筋の機能と役割	筋の収縮様式と筋力		
5	運動と呼吸	運動と循環		
6	運動と呼吸	運動と呼吸		
7	運動と内分泌	運動とホルモン		
8	運動と肥満	身体組成と肥満		
9	運動処方	運動処方・車いすバスケットボール		
10	運動と生活習慣病	メタボリックシンドローム、肥満の最近の知見		
11	運動と体温	運動と体温調節		
12	運動と疲労	筋疲労の要因		
13	運動と老化	老化にともなう身体機能の変化		
14	運動と栄養	運動と栄養、運動選手の栄養		
15	まとめ	まとめ		

教 科 書	入門運動生理学
参 考 書	講義時に随時案内

授業科目名	健康スポーツ実技	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	選 択

指導方法	高山キャンパスの体育館、高山運動公園グラウンドおよび高山キャンパス周辺において、健康づくりを実践するための実技を行う。からだの調整（コンディショニング）としてウォーキングを中心に行い、次第に個人の体力レベルとモチベーションを高めることを目標とする。スポーツは、体育館およびグラウンドで行える選択制のレクリエーションスポーツとする。車椅子バスケットボールの講義を予定している。
科目の目的	健康スポーツ理論の実践として健康増進、体力向上のための運動を行う。生涯スポーツ、レクリエーション参加を通じた生活の質の向上を実践する。スポーツの実践を通してクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学習到達目標	健康のための運動の実践と体力の向上を到達目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法	出席、意欲、態度および実技能力での総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ガイダンス	講義概要の解説（高崎キャンパス教室）		
2 3	実技1（2コマ）	高山キャンパス、キャンパス周辺、グラウンド、体育館 コンディショニング（体力の調整）、ストレッチ ウォーキング、健康度調査など		
4 5	実技2（2コマ）	高山キャンパス、コンディショニング（体力の調整） 12分間走トレーニング		
6 7	実技3（2コマ）	高山キャンパス、12分間走テスト コンディショニング（体力の調整）		
8 9	実技4（2コマ）	高山キャンパス、12分間走テスト予備日 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
10 11	実技5（2コマ）	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
12 13	実技6（2コマ）	グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館車いすバスケットボール		
14 15	実技7（2コマ）	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		

教科書	
参考書	



授 業 科 目 名	英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。講義と受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組める力をつける。 専門分野の基本英語語彙力をつける。
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語、英語表現の習得。
関 連 科 目	【関連する教養科目】 英語 II 看護学のための基礎英語 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、前期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Introduction	授業の説明、自己紹介		
2	(Reading) Unit 1 (会話) Unit 1	Stress and Anxiety を読む。 急に話しかけられたときの対応		
3	(Reading) Unit 1 (会話) Unit 2	Stress and Anxiety を読む。 自己紹介のときの基本的質問と答え方		
4	(Reading) Unit 2 (会話) Unit 3	Vitamins and Supplements を読む。 丁寧な質問の仕方		
5	(Reading) Unit 2 (会話) Unit 4	Vitamins and Supplements を読む。 初診の患者さんへの対応		
6	(Reading) Unit 3 (会話) Unit 5	Alzheimer s を読む。 道順と尋ね方と答え方		
7	(Reading)Unit 3 (会話) Unit 6	Alzheimer s を読む。 症状の尋ね方		
8	(Reading)Unit 4 (会話) Unit 7	Music Therapy を読む。 症状の尋ね方		
9	(Reading)Unit 4 (会話) Unit 8	Music Therapy を読む。 症状の尋ね方		
10	(Reading)Unit 5 (会話) Unit 9	Laughter as Medicine を読む。 薬の服用に関する表現		
11	(Reading)Unit 5 (会話) Unit 10	Laughter as Medicine を読む。 予約の取り方		
12	(Reading)Unit 6 (会話) Unit 11	Robotic Surgery を読む。 手術に関する表現		
13	(Reading)Unit 6 (会話) Unit 12	Robotic Surgery を読む。 入院患者への質問		
14	復習	Reading の復習		
15	まとめ			

教 科 書	John S. Lander 著 <i>English for Health and Medicine</i> (『ビデオレポート：健康と医療』)、朝日出版社、2006年。 知念クリスティーン&上瀧真紀恵、『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005年。
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストとプリントに沿って進める。講義と受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	英語 I で養成した専門分野の英語に取り組める力の発展。 専門用語語彙力の発展。
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語語彙力、英語表現力の向上。
関 連 科 目	【関連する教養科目】 英語 I 看護学のための基礎英語 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、後期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	(Reading) Unit 7 (会話) 1	Safe Anesthetics を読む。 内科に関する表現		
2	(Reading) Unit 7 (会話) 2	Safe Anesthetics を読む。 外科に関する表現		
3	(Reading) Unit 8 (会話) 3	Physical Therapy を読む。 小児科に関する表現		
4	(Reading) Unit 8 (会話) 4	Physical Therapy を読む。 歯科に関する表現		
5	(Reading) Unit 9 (会話) 5	Cosmetic Surgery を読む。 眼科に関する表現		
6	(Reading)Unit 9 (会話) 6	Cosmetic Surgery を読む。 耳鼻咽喉科に関する表現		
7	(Reading)Unit 10 (会話) 7	Vaccine Availability を読む。 産婦人科に関する表現		
8	(Reading)Unit 10 (会話) 8	Vaccine Availability を読む。 整形外科に関する表現		
9	(Reading)Unit 11 (会話) 9	Safe Blood and AIDS Prevention 皮膚科に関する表現		
10	(Reading)Unit 11 (会話) 10	Safe Blood and AIDS Prevention 泌尿器科に関する表現		
11	(Reading)Unit 12 (会話) 11	The Visible Human Project を読む。 Skit を作る。		
12	(Reading)Unit 12 (会話) 12	The Visible Human Project を読む。 Skit を作る。		
13	発表会	Skit の発表		
14	復習	Reading の復習		
15	まとめ			

教 科 書	John S. Lander 著 <i>English for Health and Medicine</i> (『ビデオレポート：健康と医療』)、朝日出版社、2006年 会話表現はプリントを使用。
参 考 書	英和辞書

授業科目名	英語表現	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って進めるが、適宜プリントも使用する。受講者の授業参加。
科目の目的	Listening, Reading, Speaking を通して様々な英語表現に触れ、理解を深め、writing にもつなげる。
学習到達目標	より高度な専門分野の英語表現の習得。専門分野以外の場面での英語表現の習得。パラグラフ writing の習得。
関連科目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、後期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	会話&読解 1	Unit 6 産婦人科での表現		
2	会話&読解 2	Unit 6 産婦人科での表現		
3	会話&読解 3	Unit 6 産婦人科での表現		
4	会話&読解 4	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
5	会話&読解 5	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
6	会話&読解 6	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
7	会話&読解 7	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
8	会話&読解 8	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
9	会話&読解 9	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
10	Writing 1	Paragraph writing の基礎		
11	Writing 2	Paragraph writing の基礎		
12	Writing 3	英語で書いてみる		
13	Writing 4	英語で書いてみる		
14	Writing 5	英語で書いてみる		
15	まとめ			

教科書	知念クリスティーン&迫 和子著 『クリスティーンのレベルアップ看護英会話』、医学書院 2005年 Writing はプリントを使用。
参考書	英和辞典

授業科目名	ステップアップ英語	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	プリントにより進める。講義と受講者の授業参加。
科目の目的	専門分野の文献が読める力の強化。将来の進学や就職に備えて読解力、リスニング力の強化。
学習到達目標	専門分野の英語文献が正しく理解できる。英語専門用語の定着。リスニング力の向上。
関連科目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 英語表現 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、後期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
2	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
3	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
4	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
5	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
6	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
7	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEICのリスニング問題		
8	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
9	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
10	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
11	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 TOEFLのリスニング問題		
12	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度のリスニング問題		
13	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度のリスニング問題		
14	Reading&Listening	看護、理学療法に関する文献を読む。 英検2級程度のリスニング問題		
15	まとめ			

教科書	プリントを使用する。
参考書	英和辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループでの会話練習等。
科 目 の 目 的	「読む、書く、聞く、話す」の四能力のうち、特に「聞く、話す」に重点を置きながら、日常会話ができる語学力を習得させる。また、中国語学習を通じて、中国の社会状況、地理、文化、歴史、生活習慣などを理解する。多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である。それを習得するには、毎日の練習と個々の指導が不可欠である。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらおう。また日本語と違うところも判ってもらおう。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気を作り、日常会話ができる基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記試験を行う。出席数、受講時の学力と試験成績を参考の上、成績を評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	発音の基本	1. ガイダンス、母音、四声		
2	発音練習	2. 母音、子音、四声		
3	発音練習	3. 音節表の読む練習		
4	レッスン 1, 2	4. 挨拶、自己紹介		
5	レッスン 3, 4, 5	5. 数字、曜日		
6	レッスン 6, 7	6. 時刻、月日		
7	日常会話 1,	7. 動詞「是」の用法		
8	日常会話 2	8. 指示詞と疑問詞		
9	日常会話 3, 4	9. 副詞		
10	日常会話 5, 6	10. 動詞「有」の用法		
11	日常会話 7	11. 動詞「在」の用法		
12	日常会話 8	12. 年齢の尋ね方		
13	日常会話 9	13. 値段の尋ね方		
14	日常会話 10	14. 形容詞の表現		
15	期末テスト	15. テスト		

教 科 書	「いちばんわかりやすい基本の中国語」伊藤醇（成美堂）
参 考 書	

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	金 福 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	コリア語の基礎を学ぶとともに、韓国の社会や文化への理解を深める。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・あいさつをはじめ、身近で簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>
関 連 科 目	国際関係論
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ガイダンス	コリア語は言語構造が日本語と非常によく似ていることから学びやすい言語といえる。しかし、表記された文字と実際の発音が異なることも多いため、正確な発音を習得するまでには少々時間を要する。そこで、発音の練習を徹底的に行いながら、基本文法や語彙、会話を体系的に学んでいく。 前半は読む力・書く力を養うとともに、身近で簡単な日常会話を身につけていく。後半には映画を鑑賞することを通し、聞く力を養っていく。おりにふれて、韓国の社会や文化についてビデオを通して学ぶ。		
2	基本母音・基本子音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コリア語に関する基礎知識：ハングルとは？</li> <li>・基本母音字・基本子音字：発音練習</li> </ul>		
3	合成母音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合成母音字：発音練習</li> </ul>		
4	パッチム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッチム：発音練習</li> </ul>		
5	韓国の文化紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料を通して韓国文化を学ぶ</li> </ul>		
6	第1課 (1)(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介に関する表現</li> </ul>		
7	第1課 (3)(4)	「～は～です」		
8	第2課 (1)(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物や人について尋ねる表現</li> </ul>		
9	第2課 (3)(4)	「～は～ですか」		
10	第3課 (1)(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所・持ち物に関する表現</li> </ul>		
11	第3課 (3)(4)	「あります・います/ありません・いません」		
12	第4課 (1)(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活・習慣に関する表現</li> </ul>		
13	第4課 (3)(4)(5)	「します、しません」		
14	ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国映画を通して聞き取り練習</li> </ul>		
15	定期試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験</li> </ul>		

教 科 書	「よくわかる韓国語 STEP 」 入佐信宏・文賢珠 著 (白帝社) CD付
参 考 書	「携帯版 韓国語会話とっさのひとこと辞典」 金裕鴻 著 (DHC刊)

授 業 科 目 名	家 族 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 ジェンダー論 地域社会学 法学 【この科目が基盤となる専門科目】 看護学入門、看護学概論、母性看護学概論、地域看護学概論 在宅看護論
成 績 評 価 方 法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族(世帯) b) 住居、 c) 家族周期 A. 家庭生活の基本機能 a) 生産・労働 2. ライフスタイル A. 家族の機能と役割 a) 夫婦の役割機能の変化、b) 家族内介護者の変化 c) 育児と介護の社会化、 d) 家事機能の変化 1. 生活基盤 B. 家庭生活の基本機能 b) 教育・養育、c) 保健・福祉、d) 生殖、 d) 慰安・交流 1. 生活基盤 B. 生活単位 a) 家族(世帯) 【必修問題】 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 4 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) ノーマライゼーション 【必修問題】 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 3 患者と家族 A 家族の機能	【地域看護学】 目標1地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う 2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 【地域看護学】 目標：あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近方法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 【地域看護学】 目標2地域環境の変化とあわせ、人々の健康への影響と、健康課題への個人ならびに地域組織の対処行動についての理解力を問う 3. 社会環境の変化と健康課題 C 健康に影響する生活環境要因 b) 生活構造 c) 家族形態 d) 労働形態 【地域看護学】 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース		
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスク - 夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期		
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから		
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族		
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ		
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻		
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見		
9	家族をめぐる制度(3)	民法第五編 相続 戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴 - 氏と墓		
10	家族をめぐる制度(4)	“夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案		
11	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環 稼得：収入と所得、所得の種類、賃金とその内訳		
12	家庭経済(2)	モノの購入 - 家計支出、家計支出の内訳、 家事労働：消費と労働力の再生産、家事労働の種類、貯蓄：貯蓄の意味、種類		
13				
14	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣 食生活		
	生活習慣(2)	家族と生活習慣 喫煙、飲酒		
15	まとめ	まとめ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			a) 家族関係 <b>【社会保障制度と生活者の健康】</b> 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 家族の機能と役割 c) 育児と介護の社会化 2. ライフスタイル A. ライフスタイルの変化 a) 少子化、健康寿命の延長 e) 家族観の多様化 3. 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	価 6. 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 b) 就労女性 <b>【地域看護学】</b> 2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 <b>【地域看護学】</b> 6. 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 c) 子どもの虐待、女性への暴力 9. 精神保健指導 C社会病理を背景とするおもな疾病 d) 家庭内暴力 8. 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	「21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた」落合恵美子(有斐閣)2004 「迷走する家族 戦後家族のモデルの形成と解体」山田昌弘(有斐閣)2005 「DV防止とこれからの被害当支援」戒能民江(ミネルヴァ書房)2006 「児童虐待」川崎二三彦(岩波新書)2006 「系統看護学講座 別巻 15 家族論・家族関係論」(医学書院)2004 「雇用流動化のなかの家族」船橋恵子他(ミネルヴァ書房)2008



授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 園 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験(80%)、出席・受講状況(20%)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	環境とは 地球の環境の構造 生活を支える資源 環境問題の変遷 典型七公害 酸性雨 オゾン層破壊 地球温暖化( ) 地球温暖化( ) エネルギー問題 廃棄物問題( ) 食料生産と環境 循環型社会 持続可能社会 試験	環境問題の範囲と背景 地球の自然の成り立ち 再生可能資源と再生不能資源 公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷 足尾鉍毒、水俣病、イタイタイ病 燃烧生成物、硫酸・硝酸の生成 オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策 予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任 日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー 一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物 食料生産の現状、窒素循環、フードマイレージ 3R、熱回収、適正処分 再生可能資源中心の社会づくり 筆記試験	【社会保障制度と生活者の健康】 目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 3.生活環境の保全 A.地球環境 a)地球温暖化 b)オゾン層の破壊 c)酸性雨 B.水・空気・土壌 a)水の安全性 b)大気汚染 c)ダイオキシン C.食品管理および家庭用品 a)食品安全確保対策 b)食品衛生管理制度 c)家庭用品の安全対策 D.ごみ・廃棄物 a)一般廃棄物と産業廃棄物 b)市町村の責任 c)生活廃水処理 E.住環境 a)バリアフリー b)シックハウス症候群	【地域看護学1】 3.社会環境の変化と健康課題 C.健康に影響する生活環境要因 e)生活環境(公害・環境汚染)

教 科 書	使用せず
参 考 書	「平成20年版環境循環型社会白書」環境省編(ぎょうせい)

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Word、Excel、PowerPoint 等を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Word、Excel、PowerPoint 等を使用して、レポート、研究発表等の種々の文書作成やプレゼンテーションなどが円滑に実行できるようにする。
関 連 科 目	特になし
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Windows と Word 入門	Windows と Word の基礎的事項を指導する		【疫学・保健統計】11-A-a) コンピュータとソフトウェア b) ネットワークとインターネット c) データの電子化 d) 個人情報の秘密保持  11-B. データベース 11-C. レコードリンケージ
2	文字入力	Word を使った文字入力を指導する		
3	文書入力、文書の作成	文書の入力・作成について指導する		
4	文書の訂正、修正	文書の訂正・修正等について指導する		
5	文書の編集	文書の編集(削除、挿入など)を指導する		
6	PowerPoint の基礎	PowerPoint の基礎的事項を指導する		
7	プレゼンテーションの基本事項、作成	プレゼンテーションの基本事項・留意事項とプレゼンテーションのスライド作成を指導する		
8	Excel の基本	Excel の基礎的事項について指導する		
9	関数の活用	Excel の種々の関数について指導する		
10	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する		
11	グラフ作成	種々のグラフの描き方等について指導する		
12	データベースの基本事項、データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計の方法を指導する		
13	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
14	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	試験	試験を実施する		

教 科 書	「30 時間でマスター WindowsVista 対応 Word&Excel2007」実教出版編修部編 (実教出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	法 学	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。
関 連 科 目	経済学・ジェンダー論・家族学・教育学
成 績 評 価 方 法	論述中心の筆記試験により評価する。自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうかを、評価の基準とする。なお、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8	序論 人権(1) 人権(2) 人権(3) 民主主義(1) 民主主義(2) 平和 まとめ  各回の授業内容と順番は、変更することがある。	憲法・法律の役割 人権とは何か 家族と人権 労働と人権 選挙と民主主義 表現の自由と民主主義 憲法9条の考え方		

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ - 憲法のわかる50話 - 』岩波ジュニア新書

授業科目名	ジェンダー論	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	1.高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2.若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える
学習到達目標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2.1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる 3.2.のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4.3.のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる
関連科目	【関連する教養科目】家族学、法学
成績評価方法	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ジェンダー、戦後日本社会の性別関連問題の二重の循環構造	ジェンダーとは 製造装置の回路(2つの性別分業)、一次生産物(社会資源の男性偏在)、二次生産物(女性問題)		
2	製造装置を読み解く(1)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働 第1の性別分業:社会的労働と私的労働(続)		
3	製造装置を読み解く(2)	第2の性別分業:社会的労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)、2つの性別分業の関係		
4	製造装置を読み解く(3)	一次生産物:経済力と意思決定の男性への偏り、二次生産物:		
5	生産物次元の問題(1)	女性問題 女性に対する暴力、とくにDVを具体例として(1)		
6	生産物次元の問題(2)	二次生産物:女性問題 女性に対する暴力を例にDV(1)		
7	生産物次元の問題(3)	二次生産物:女性問題 女性に対する暴力を例にDV(2)		
8	生産物次元の問題(4)	ハラスメント		
9	関連問題 児童虐待(1)	児童虐待を理解する		
10	関連問題 児童虐待(2)	児童虐待の防止・対応		
11	性別について公正な社会へ(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別について公正な社会の姿(1)		
12	性別について公正な社会へ(2)	性別について公正な社会の姿(2)、社会的労働と私的労働のゆくえ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	ワークライフバランス(1)	ワークライフバランスの考え方、ワークライフバランスの取り組み		
14	ワークライフバランス(2)	子育てとジェンダー		
15	まとめ	まとめ		

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	内閣府「男女共同参画白書 平成21年度版」

授業科目名	地域社会学	単位認定者	坂本祐子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。
学習到達目標	1 地域社会に関する基本的な知識(地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など)を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関連科目	関連し合う教養科目 - 老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 - 精神地域看護学 地域看護学概論 地域看護活動論 ・ ・ 災害看護
成績評価方法	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。  1. 生活基盤 C. 生活の場と健康 a) 都市 b) 農村・漁村 c) へき地  D. 労働と健康 a) 仕事内容 b) 労働時間 c) 仕事と余暇  3. 人間の集団としてのほたらき B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク  C. 職場における人間関係 a) 上司との関係 b) 組織のなかでの役割 c) 同僚との関係	
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。		
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		
6	家族と地域(1)	労働環境の変化と家族		
7	家族と地域(2)	家族の機能と家族の変容		
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化		
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み		
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法		
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価		
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク		
14	ふりかえり	今までの講義のまとめ		
15	定期試験	筆記試験		

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「地域の社会学」森岡清志編（有斐閣アルマ）

授業科目名	ボランティア活動論	単位認定者	竹澤泰子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義 実践
科目の目的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。
学習到達目標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。
関連科目	
成績評価方法	定期試験。テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。 ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である		
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動(日本と米国)		
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論		
4	ボランティア活動の経験談	少年院に勤務していた関口晋氏の「群馬友の会」について聞く 竹澤同席		
5	ボランティア活動経験談	NPO あかね工房理事長小柏桂子氏「ダウン症者との関わり」について 竹澤同席		
6	ボランティア活動経験談	NPO ぶどうの木施設長森村氏の障害児の教育についての話と森村大地氏(息障害を持つ方)のサクセス演奏 竹澤同席		
7	ボランティア活動のプレゼンテーションの調査開始	国内外のボランティア活動を一つ取り上げて、グループで調査、発表の準備開始		
8	同上	グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認 自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話方の訓練。 学生同志発表を採点する。質疑応答		
9	同上	同上		
10	ボランティアの調査並びにプレゼンテーション	各グループで調査しまとめたことを発表する		
11	同上	同上		
12	同上	同上		
13	ボランティアについて	国際問題研究所所長太田敬雄氏 大学生とボランティアについての話 太田氏単身で講義 7月14日		
14	レポートの書き方	調査・学習したことについてのまとめの指導 ボランティアについての意見交換		
15	期末試験	レポート提出		

教科書	
参考書	「ボランティアという人間関係」原田隆司(世界思想社) シリーズ福祉のこころ1, 社福祉の心、2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり、4 きみの心のサポーター 5 命のあかりを求めて 旬報者



授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	飯 島 正 義
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義形式。
科 目 の 目 的	経済学は私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにし、その知識を私たちの経済生活に活かしていくことを目的とした学問である。したがって、経済学が明らかにしようとしているのは私たちの経済生活そのものであり、実践的な学問でもある。
学 習 到 達 目 標	1. まず経済の基礎理論を理解できるようにする。 2. その上で現実の経済現象を理解できるようにする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	平常点（出欠席や学習態度）、授業中に行う確認、学期末試験で総合的に評価する（絶対評価）。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	経済学とは何か	経済学は何を明らかにする学問か		
2	経済学の歴史（1）	古典学派		
3	経済学の歴史（2）	新古典派		
4	経済学の歴史（3）	ケインズ経済学		
5	ミクロ経済学（1）	経済の3主体と国民経済		
6	ミクロ経済学（2）	市場メカニズム		
7	ミクロ経済学（3）	市場の失敗と政府の役割		
8	マクロ経済学（1）	国内総生産（GDP）		
9	マクロ経済学（2）	経済成長		
10	マクロ経済学（3）	景気変動		
11	マクロ経済学（4）	貿易と国際収支		
12	マクロ経済学（5）	為替レート		
13	経済統計を読む（1）	景気指標を読む		
14	経済統計を読む（2）	GDPの需要項目に沿って日本経済を見る		
15	まとめ	これまでのまとめ		

教 科 書	使用せず
参 考 書	必要に応じて紹介する。

授業科目名	大学の学び入門	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習、学習記録・生活記録の記入作成提出、グループワーク
科目の目的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 自立した人間になっていくために必要な知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけそれを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ
学習到達目標	1. 高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違いを理解する、 2. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を高める、 3. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める(スチューデント・スキル)
関連科目	看護学入門、看護学概論
成績評価方法	出席状況、提出状況による単位認定

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	科目の説明、大学生の学習・生活	科目の目的・目標・進め方の説明、学習記録と生活記録高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い		
2	総長特別講義	「群馬パーズ大学の伝統をつくる」		
3	アカデミック・スキルとスチューデント・スキル	アカデミック・スキルー“自ら課題を見つけそれを解決していく力”の構成要素、スチューデント・スキルー時間管理を中心とする生活管理、人と関わる力		
4	課題を立てる	前回授業を踏まえたグループワーク 学習、生活両面の自己課題を整理し、課題シートに記入する		
5	アカデミック・スキルを磨く(1)聞く	授業を受ける、ノートを取る、復習とは何をすることか		
6	アカデミック・スキルを磨く(2)読む	本や資料を読む		
7	アカデミック・スキルを磨く(3)調べる	情報の探し方		
8	アカデミック・スキルを磨く(4)考える	15分読書 課題を見出す、解決の筋道を組み立てる、論理を組み立てる 15分読書		
9	学習記録・生活記録を振り返る	学習記録・生活記録を振り返る		
10	アカデミック・スキルを磨く(5)書く	15分読書 レポートの書き方：その1		
11	アカデミック・スキルを磨く(6)書く	15分読書 レポートの書き方：その2		
12	アカデミック・スキルを磨く(7)書く	15分読書 例題レポートの作成：その1		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	アカデミック・スキルを磨く(8)書く	15分読書 例題レポートの作成: その2		
14	アカデミック&チューデント・スキル: 話す、話し合う	話す、総合力としての「話し合う力」		
15	まとめ	まとめ		

教科書	使用しない(プリント、ワークシート、学習記録・生活記録)
参考書	玉川大学コア・FYE 教育センター「大学生生活ナビ」玉川大学出版部、2006 天野明弘・太田勲他「スタディ・スキル入門」有斐閣、2008 早川修「大学生諸君! - 今求められる問題解決力 - 」流通経済大学出版会、2008 学習技術研究会「知へのステップ」くろしお出版 木下 是雄「理科系の作文技術」中公新書、1981

授業科目名	看護学のための生物学	単位認定者	佐藤久美子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	高等学校までの生物学の学習と、看護学の専門教育をつなぐために、生命現象と生体機能の基礎的理解を深めることを目的とする。
学習到達目標	以下3事項について正確に理解する 1. 生体構成成分 2. 細胞の構造と機能 3. 遺伝現象
関連科目	生理学、生化学
成績評価方法	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席をはじめとする平常点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生物学概説 生体構成成分 - その1 -	生物学はどのように発展し現在に至ったのか、生物学の研究対象や方法、「生命現象の特質」について述べる。 また、水と生命との関わり、及び生体を構成する高分子炭素化合物の中で重要な機能を持つタンパク質の構成単位、構造や機能について解説する。		
2	生体構成成分 - その2 -	遺伝物質である核酸の構成単位、構造などについて学ぶ。また、脂質、糖などの構造(構成単位、基本構造)、機能、種類などについて学び、無機質についても、その種類や役割などを述べる。		
3	原核細胞と真核細胞 真核細胞 - その1 - 細胞膜と細胞質基質	細胞の形態(大きさや形など)、細胞の研究方法について概説する。続いて原核細胞の内部構造(細胞膜の構造と機能、核様体、リボゾームなど)について学ぶ。次に、真核細胞について、細胞膜の構造と働き、細胞膜を介した物質の輸送、グリコカリックス(糖衣)の役割及び細胞質基質内において行われている種々の物質の合成、分解反応などについて学ぶ。		
4	真核細胞 - その2 - 細胞内小器官の働き	粗面小胞体と滑面小胞体の構造、それぞれの機能、両者の関係及粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴などについて学ぶ。次にゴルジ体の構造と機能、小胞体とゴルジ体の関係、ゴルジ体の役割について、続いてリソゾームの形成過程と種類、リソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割について解説する。また、ペルオキシソームとその中に含まれる酵素の性状を学ぶ。		
5	真核細胞 - その3 - ミトコンドリアとエネルギー代謝、葉緑体と光合成	エネルギー製造工場であるミトコンドリア内で起こっている反応(解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)や、その結果生ずるエネルギーの行方について学ぶ。また、色素体、葉緑体の構造と機能について解説する。光合成における光エネルギーの捕捉の機構、それに引き続く炭酸同化作用のメカニズム、C3植物とC4植物について、また細胞骨格とその役割について解説する。		
6	中間テスト 真核細胞 - その4 - 細胞骨格、核の構造と働き	1回~5回までの内容についてテストで確認する。 核の構成成分、核膜や仁の構造とはたらきについて学ぶ。また、細胞の種類に応じた核の形態変化や機能の変化を解説する。		
7	細胞分裂と細胞周期 - その1 -	体細胞で見られる細胞分裂(体細胞分裂)と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂の違いを述べ、細胞周期の概念、増殖周期と成長周期の特徴について概説する。また、細胞周期S期に起こる細胞内の変化について学ぶ。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	細胞分裂と細胞周期 - その2 - 細胞の死 アポトーシス	細胞周期の G2 期、M 期、G1 期にみられる構造の変化や物質合成、中心体の分裂、染色体の変化などについて学ぶ。また、G1 期の細胞の特徴を機能分化と限界点に焦点をあてて解説する。各組織の細胞と増殖速度についても学ぶ。 細胞は、種々の物理的要因や病原体の感染などにより、死滅するが、一方、遺伝子レベルで予め予定されたアポトーシスと呼ばれる細胞死の機構があり、細胞の増殖とアポトーシスとのバランスとによって多細胞体の体制はコントロールされている。その機構を学ぶ。		
9	生命の自己増殖 - 遺伝子の本体 DNA とその複製 染色体の構造	遺伝子の本体 DNA について学ぶ。また、DNA 複製機構 (DNA の開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースと DNA ポリメラーゼ、DNA リガーゼの役割など) 最新の情報を含め解説する。 染色体の構造について、染色糸から染色体への構造の変化、核内に多量にみられる塩基性タンパク質、ヒストンの役割などに焦点をあてる。また真核細胞の遺伝情報発現と染色体構造との関係についても解説する。		
10	遺伝情報の発現 - その1 -	遺伝情報発現の機構について学ぶ。原核細胞と真核細胞における情報発現機構の相違について学び、その意味することについて考察する。また、真核細胞の遺伝情報発現の過程 (DNA-hnRNA-プロセッシング-mRNA の順に遺伝情報が塩基配列が転写され、鋳型ができる過程、それに引き続くリボソーム上でのタンパク質のアミノ酸配列翻訳過程) を学ぶ。		
11	遺伝情報の発現 - その2 - 環境と遺伝毒物	遺伝子発現のコントロール機構について学ぶ。原核生物と真核生物における情報発現コントロール機構の違い、特定の時期 (環境) に特定の遺伝子が発現する機構 (あるいは発現しない機構) について述べる。 放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等が DNA を損傷する機構や修復機構、また、損傷によって具体的影響等を解説する。		
12	ヒトの遺伝 - その1 - 形質の遺伝	メンデルの遺伝の法則、第1法則、分離の法則と第2法則、独立遺伝の法則及び優劣の法則について学ぶ。また、遺伝子型と表現型について実例により考えてみる。主遺伝子によって支配される正常形質の代表として血液型の遺伝を、また複数の遺伝子と環境要因がかかわる多因子によって支配される正常形質として血清コレステロール値の遺伝を取り上げる。		
13	ヒトの遺伝 - その2 - 遺伝子の変化に伴う遺伝病、ヒトの遺伝子プールと遺伝病発現頻度化	ヒトの常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病発現について学ぶ。次の常染色体上の遺伝子異常が引き起こす遺伝病のうち、代表的なものを2, 3とりあげて解説する。また、伴性遺伝病の定義、X連鎖劣性遺伝病とX連鎖優性遺伝病について、家系図における具体的な現れ方を検証する。 メンデルのモデル集団の成立する要件を解説する。また、ハーデイ・ワインベルグの法則を学び、それを利用してわれわれの身近にある遺伝病やヒトの血液型などの遺伝子頻度を算出してみる。		
14	ヒトの遺伝 - その3 - ヒトの染色体とその異常症、および先天異常、遺伝相談と倫理	ヒトの染色体の形態、分類、染色体解析の方法、染色体異常の生ずる原因などについて概説したのち、染色体異常による疾病の種類と特徴について学ぶ。また、発生過程での形態形成異常や出生前診断の方法やその適応症例について解説する。ヒトに性染色体の異常が生じるとどのような結果をもたらすか、また、具体的な性染色体異常の病態や発現頻度について学ぶ。		
15	まとめ	まとめ		

教科書	はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 羊土社
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 数研出版 総合図説生物 田中隆荘・田村道夫・田中昭男監修 第一学習社

授 業 科 目 名	看 護 学 の た め の 数 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。
科 目 の 目 的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、看護師として数理現象を見出し、定量的に理表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。
学 習 到 達 目 標	1 . 基礎的な数学の概念の復習をする。 2 . 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3 . 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。		
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。		
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。		
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。		
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。		
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。		
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。		
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。		

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	看 護 学 の た め の 化 学	単 位 認 定 者	西 園 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	化学は基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、看護学に必要な化学の基本を学ぶように進める。
学 習 到 達 目 標	看護学に必要な生理学や医薬品の特質を深く理解できるようになる。また、専門職としての技能向上だけでなく、健康な生活をおくることの手助けとして、化学的理解が役立てられる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験 ( 8 0 % )、出席・受講状況 ( 2 0 % )

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	物質の成り立ち	物質は何からできているか		
2	物質の変化	化学反応、燃焼とはなにか、エネルギーの出入り		
3	物質の状態	固体・液体・気体、溶液、コロイド、イオン		
4	有機化合物	炭素の性質、炭化水素、アルコール、有機酸		
5	高分子化合物	炭水化物、脂質		
6	高分子化合物	タンパク質、核酸		
7	生命と化学	生体高分子、酵素		
8	試験	試験		

教 科 書	「食を中心とした化学」【第3版】東京教学社
参 考 書	

授 業 科 目 名	看護学のための基礎英語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。講義。
科 目 の 目 的	英語基礎力の強化
学 習 到 達 目 標	基礎英文法をしっかり身につける。正確な発音、イントネーションで単語、文章を読む。英和辞典の活用。
関 連 科 目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語表現 ステップアップ英語
成 績 評 価 方 法	出席状況、小テスト、前期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Unit 1~4	be 動詞 一般動詞 進行形		
2	Unit 5~8	未来形 助動詞 名詞・冠詞 代名詞		
3	Unit 9~12	前置詞 形容詞・副詞 比較 命令文・感嘆文		
4	Unit 13, 17, 14, 15	接続詞 不定詞Ⅰ・動名詞Ⅰ 受動態		
5	Unit 16, 18, 19, 20	現在完了形 5文型、各種疑問文 不定詞Ⅱ		
6	Unit 21,22	itの特別用法 分詞・動名詞Ⅱ		
7	Unit 23	関係代名詞		
8	まとめ			

教 科 書	佐藤哲三&愛甲ゆかり著 <i>English Primere</i> (『大学生の英語入門』)、南雲堂、2008年
参 考 書	英和辞書



授業科目名	解剖学	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人体の基本的な構造を理解させる。
学習到達目標	看護を学ぶ上で必要な人体の構造を説明できる。
関連科目	生理学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	細胞	細胞一般、細胞膜、細胞質、細胞核、細胞周期	必修問題 1 生命活動	
2	組織	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織	A. 人体の構造と機能	
3	身体の概要	身体の切断面の名称、器官系の概要	K) 骨・筋	
4	骨格系	骨、骨の連結、骨格の構成	「人体の構造と機能」	
5	骨格系	骨格の構成	8. 運動系	
6	筋系	筋の構造と機能、主な筋	A. 姿勢 a) 体位と構え	
7	筋系	主な筋	B. 骨格 a) 骨の構造と機能 b) 体の支柱 c) 四肢の骨 d) 頭蓋骨と胸郭	
8	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ	C. 骨格筋 a) 骨格筋の構造 b) 筋収縮の機能 c) 抗重力筋 d) 四肢の筋 e) 頸部の筋 f) 表情筋 g) 呼吸筋 h) 骨盤底筋	
9	循環器系	血管一般、心臓	D. 運動 a) 関節の構造 b) 関節運動の種類 c) 随意運動と不随意運動 d) 脊髄反射	
10	循環器系	動脈系	1. 循環系	
11	循環器系	静脈系、胎生期の血液循環	A. 心臓 a) 心臓と心筋の構造 b) 心臓の機能 c) 刺激伝導系	
12	循環器系	血液・造血器・リンパ系	B. 血管系 a) 肺循環と体循環 b) 動脈系と静脈系 c) 脈拍 d) 血圧 e) 胎児の血液循環	
13	消化器系	消化管総論、口腔	c. リンパ系 a) リンパ管	
14	消化器系	咽頭、食道、胃、小腸、大腸	必修問題 1 生命活動	
15	消化器系	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜	A. 人体の構造と機能 h) 消化器	
16	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ	10. 栄養摂取の機構	
17	呼吸器系	鼻、咽頭、喉頭	B. 咀嚼 a) 歯・口腔の構造と機能 b) 咀嚼の過程	
18	呼吸器系	気管、気管支、肺	C. 嚥下 a) 咽頭の構造と機能 b) 食道の構造と機能 c) 嚥下の過程	
19	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道	D. 消化と吸収 a) 胃の構造と機能 b) 十二指腸の構造と機能 c) 空腸・回腸の構造と機能 d) 結腸の構造と機能 e) 肝臓と胆道の構造と機能 f) 膵臓の構造と機能	
20	生殖器系	男性生殖器	必修問題 1 生命活動	
21	生殖器系	女性生殖器	A. 人体の構造と機能 e) 循環器 f) 呼吸器	
22	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島		
23	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ		
24	神経系	中枢神経系		
25	神経系	末梢神経系		
26	神経系	自律神経系、伝導路		
27	外皮	皮膚、角質器、皮膚腺		
28	感覚器	視覚器		
29	感覚器	平行聴覚器、嗅覚器、味覚器		
30	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			9、呼吸の機構 A. 換気と発声 c) 気管・肺の構造と機能 d) 呼吸運動 e) 肺気量 f) 声帯と発声 必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 i) 泌尿気 11 排泄の機構 A. 尿の生成 a) 腎臓の構造 b) 濾過 c) 再呼吸 C. 排尿 a) 膀胱の構造神経支配 b) 尿道の構造と神経支配 D. 排便 a) 直腸・肛門の構造と神経支配  必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 l) 性と生殖 12、性と生殖に関する機構 A. 女性の生殖器 a) 女性生殖器の構造 B. 男性の生殖器 a) 男性生殖器の構造  7、液性調節（内分泌系） C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能 a) 視床下部 b) 下垂体 c) 甲状腺 d) 上皮小体 副甲状腺 e) 膵島 f) 中枢神経系を保護する組織 g) 副腎髄質 h) 消化管ホルモン i) 腎臓のホルモン j) 性腺ホルモン  必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 g) 神経細胞と情報伝達 5、神経性調節 A 神経組織 B 中枢神経の構造と機能 (ア) 末梢神経系 6、感覚と認識 A. 視覚 B. 聴覚と平衡覚 C. 嗅覚と味覚 D. 皮膚感覚 人体の構造と機能 目標 1・2 1 生命 E. 人体をおおう皮膚と膜 a) 皮膚の構造と機能 b) 漿膜・粘膜	

教科書	「解剖生理学」高野廣子（南山堂）
参考書	「解剖学講義」伊藤隆、高野廣子（南山堂）

授業科目名	解剖学	単位認定者	小林 寛
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	解剖学を補追する。
学習到達目標	循環器、内臓、感覚器、皮膚に関する基本を習得させる。
関連科目	解剖学、生理学
成績評価方法	試験で評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準		
			看護師	保健師	
1	循環器系	心臓	必修問題 1 生命活動 2、循環系 A. 心臓 a)心臓と心筋の構造 b)心臓の機能 c)刺激伝導系 B. 血管系 a)肺循環と体循環 b)動脈系と静脈系 c)脈拍 d)血圧 e)胎児の血液循環 c. リンパ系 a)リンパ管  必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 h)消化器 10、栄養摂取の機構 B. 咀嚼 a)歯・口腔の構造と機能 b)咀嚼の過程 C. 嚥下 a)咽頭の構造と機能 b)食道の構造と機能 c)嚥下の過程 D. 消化と吸収 a)胃の構造と機能 b)十二指腸の構造と機能 c)空腸・回腸の構造と機能 d)結腸の構造と機能 e)肝臓と胆道の構造と機能 f)膵臓の構造機能  必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 e)循環器 f)呼吸器 9、呼吸の機構 A. 換気と発声 c)気管・肺の構造と機能 d)呼吸運動 e)肺気量 f)声帯と発声 必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 i)泌尿気 11 排泄の機構 A. 尿の生成 a)腎臓の構造 b)濾過 c)再呼吸 C. 排尿 a)膀胱の構造神経支配 b)尿道の構造と神経支配 D. 排便 a)直腸・肛門の構造と神経支配		
2		動脈系			
3		静脈系、胎生期の循環器系			
4		リンパ系			
5	内臓学	消化器系(口腔～大腸)			
6		消化器系(肝臓、胆嚢、膵臓)			
7		呼吸器系			
8		泌尿器系			
9		男性生殖器			
10		女性生殖器			
11		内分泌系			
12	感覚器系	外皮			
13		視覚器			
14		平衡聴覚器			
15		嗅覚器、味覚器、まとめ			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 l) 性と生殖 12. 性と生殖に関する機構 A. 女性の生殖器 a) 女性生殖器の構造 B. 男性の生殖器 a) 男性生殖器の構造  7. 液性調節 (内分泌系) C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能 a) 視床下部 b) 下垂体 c) 甲状腺 d) 上皮小体 副甲状腺 e) 膵島 f) 中枢神経系を保護する組織 g) 副腎髄質 h) 消化管ホルモン i) 腎臓のホルモン j) 性腺ホルモン  必修問題 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 g) 神経細胞と情報伝達 5. 神経性調節 A 神経組織 B 中枢神経の構造と機能 (イ) 末梢神経系 7. 感覚と認識 F. 視覚 G. 聴覚と平衡覚 H. 嗅覚と味覚 I. 皮膚感覚 人体の構造と機能 目標 1・2 1 生命 E. 人体をおおう皮膚と膜 a) 皮膚の構造と機能 b) 漿膜・粘膜	

教科書	「解剖学講義」伊藤隆 高野廣子 (南山堂)
参考書	

授業科目名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、看護に必要な基礎知識の修得をする。 また、代表的な疾患の病態生理も適時に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	まず、各臓器の基本的機能を理解する。そして、臓器機能、その変動要因、負担となることなど生理学的観点から疾患を把握できるようにする。
関 連 科 目	解剖学、生化学、病理学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポートなどにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	生命とは	細胞・組織・器官	a . 細胞の構造 b . 細胞内小器官の構造	
2	体液	体液の恒常性	a . 体液の電解質	
3			b . 酸塩基平衡	
4			c . 脱水	
5				
6			循環、血液	心臓血管系の基本構造と機能、調節 血液の成分と機能
7	呼吸	呼吸器系基本構造と機能、調節	a . 鼻腔の構造と機能	
8			b . 咽頭・咽頭の構造 c . 器官・肺の構造 d . 呼吸運動 e . 肺機能の測定	
9			f . 声帯と発声 g . 外呼吸と内呼吸 h . ガス分圧	
10			i . 酸素の運搬 j . 二酸化炭素の運搬 k . 呼吸中枢 l . 呼吸に影響を与える因子	
11				
12				
13				
14	消化と吸収(消化管)	消化器系基本構造と機能、調節	a . 咀嚼の過程 c . 口腔	
15			d . 咽頭の構造と機能	
16			e . 食道の構造と機能 f . 胃の構造と機能 g . 十二指腸、空腸・回腸の構造と機能 h . 結腸、直腸・肛門の構造と機能	
17	消化と吸収(肝、膵、胆)	消化器系基本構造と機能、調節	a . 膵臓の構造と機能	
18			b . 肝臓と胆嚢の構造と機能	
19				
20				
21				
22	泌尿器と生殖器	腎臓の構造と機能、調節 尿生成、蓄尿と排尿	a . 腎臓の構造 b . 濾過	
23			c . 再吸収、分泌 d . 尿量の調節 e . 膀胱と尿路	
24				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
25 26 27	内分泌	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	a. ホルモンとは b. ホルモンの作用機序 c. 様々なホルモン	
28 29 30	神経、感覚	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系 主要な感覚器と伝導路	a. 神経細胞の生理 b. 神経細胞と情報伝達 c. 中枢神経系を保護する組織 d. 伝導路 e. 末梢神経 f. 感覚器	

教科書	「トートラ人体の構造と機能」大野忠雄ほか訳（丸善）
参考書	「トートラ人体解剖生理学」佐伯由香訳（丸善） 「カラー人体解剖学」フレディック・H・マティーニ著（西村書店）

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	牛 島 義 雄
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義(パワーポイント、プリントを使用)
科 目 の 目 的	看護の対象となる人間の体を構成するミクロとマクロの世界(生命と物質との繋がり)を栄養学と織り交ぜた総合的立場から、「根拠に基づく看護(EBN)」をめざし、基本的で、かつ臨床看護に役立つ基礎知識を修得する。そして、「人間」の理解を深めることをねらいとする。
学 習 到 達 目 標	生体分子を構成している化学物質にはどのようなものがあるのかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応が理解でき、また、生命維持の機構や病気との関連も理解できるようになることである。
関 連 科 目	看護のための化学、看護のための生物学、病態栄養学、疾病の成り立ち、生理学、薬理学
成 績 評 価 方 法	小テスト(30%)、学期末試験(70%)などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生体分子、細胞、化学結合、化学反応	生体の成り立ち/個体、器官、組織、細胞/細胞内小器官の機能/細胞分画法/生体を構成する物質/水の構造は?/化学反応/エネルギーの発生		
2 3	タンパク質の性質	タンパク質を構成しているアミノ酸の種類/高次構造を維持する結合/タンパク質は変性し、機能を失う/血漿タンパク質/神経伝達物質		
4	酵素の性質と働き	酵素とは/酵素の特性/酵素の種類/アイソエンザイム/血清酵素の診断への利用/ビタミン		
5 6	生体内における糖質の代謝	小テスト (5回目に実施)/糖とは何か/糖の分類/糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である/グルコースとグリコーゲンの合成/血糖の調節/糖尿病		
7 8	生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質/脂質の代謝/リポタンパク質と脂質代謝異常/イコサノイド/ホルモン		
9	活性酸素	小テスト /活性酸素とは/電子伝達系/生体内における生成とその消去		
10	生体内におけるアミノ酸、蛋白質の代謝	尿素回路/糖新生/アミノ酸の先天性代謝異常症/主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動		
11 12	生体内における核酸の役割	小テスト (12回目に実施)/核酸の構成成分/核酸の長さは/タンパク質はどのように作られる/いらなくなった核酸の処分/遺伝病の犯人は?		
13 14 15	免疫	抗原と抗体/アレルギー/生体は細菌の侵入にどう対応する?/白血球の殺菌作用 (予備) 期末試験		

教 科 書	マクマリー生物有機化学 生化学編(第2版) J. McMurry 著(丸善)
参 考 書	分子細胞生物学(第5版) J. Darnell 著(東京科学同人) ハーパー 生化学(原著27版) R. K. Murray 著(丸善)

授業科目名	疾病の成り立ち	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する学問である。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学習到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関連科目	解剖学 解剖学 生理学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。	【必修問題】	
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。	2.病態と看護 A.症状と看護	
3	代謝異常1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。	3.主要疾患と看護 A.生活習慣病 C.外傷 E.小児疾患	
4	代謝異常2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。	【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標1 1.疾病の成り立ち A.生体の反応と疾病の機序 B.生体の回復力 C.個体差と個人の反応	
5	循環障害1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。	目標2 1.異常状態の特徴 A.細胞や組織に生じる変化 B.異常状態に影響する個体の条件	
6	循環障害2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。	2.疾病に対する医療と看護 A.異常状態に対する診断と看護 B.異常状態に対する治療と看護 c)手術適応と外科的治療 d)放射線による治療 f)輸血	
7	炎症と免疫、膠原病1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。	D.健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 E.人体防御機構への看護の視点 F.医療薬品等による健康被害	
8	炎症と免疫、膠原病2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。	目標3 1.中枢神経機能の障害 A.脳機能の障害 B.感覚機能の障害	
9	炎症と免疫、膠原病3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。	2.生命維持機能の障害 A.生命の危機 B.呼吸機能の障害	
10	腫瘍1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。		
11	腫瘍2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。		
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。		



回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	病理検査	病理検査の意義・細胞診・生検組織診・手術時の迅速診断・病理解剖・病理組織・細胞診標本の作製課程・	C. 循環機能の障害 D. 造血にかかわる諸機能の障害	
14	その他	必要に応じて上記を補う・	3. 栄養の摂取・呼吸・代謝・排泄機能の障害	
15	その他	必要に応じて上記を補う・	A. 食の障害 B. 消化管の機能障害 C. 肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害 D. 排泄機能の障害	
			4. 内部環境調節機能の障害 A. 内分泌機能障害 B. 体液の調節障害 C. 自律神経系の機能障害	
			5. 運動機能および皮膚の障害 A. 活動や行動を妨げる障害	
			6. 生命の連続性をつくりだす機能の障害 A. 生殖機能をつかさどる器官の障害	

教科書	
参考書	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進 [ 1 ]」(医学書院)

授業科目名	公衆衛生学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
学 習 到 達 目 標	生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関 連 科 目	生命倫理 環境学 健康管理論 疫学 保健統計 地域社会学 情報処理 免疫・感染症学
成 績 評 価 方 法	定期試験 出席状況 研究発表 等

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合	必修科目 目標 3. 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 1. 健康と公衆衛生 A. 公衆衛生の概念 a) 公衆衛生の領域、活動の特徴 b) プライマリヘルスケア c) ヘルスプロモーションの展開 d) 世界保健機関 (WHO) 加盟国の役割 B. 健康と環境 a) 生態学的環境 b) 物理化学的環境 c) 社会的環境 d) 身体的・精神・心理的影響 C. 疫学的方法による健康の理解 a) 健康被害と母集団 b) 疫学的因果関係の推定 c) 臨床疫学とエビデンス 2. 健康指標と予防 A. 健康に関連した指標 a) 国勢調査 b) 人口静態 c) 出生 d) 死亡・死因 e) 死産、周産期死亡、乳児死亡 f) 平均余命、平均寿命 g) 健康寿命 h) 有病率・罹患率	疫学・保健統計 9. 人口統計 A. 人口統計の基礎 a) おもな健康指標 B. 人口静態統計 a) 人口ピラミッド b) 年少人口指数 c) 老年人口指数 d) 老年化指数 C. 人口動態統計 a) 死亡と生命表 b) 出生と人口再生産 c) 婚姻と離婚 10. 保健統計調査 A. 指定統計 a) 国勢調査 b) 人口動態調査
2	環境と公衆衛生 同上 食と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準 食中毒の発生状況、食中毒の種類		
3	国民の健康と保健統計 同上	健康指標、20世紀100年の変化 年齢調整死亡率の意義		
4	疫病の疫学と予防	疫学の方法、疫学調査方法、因果関係推論、スクリーニング		
5	同上 同上	感染症の疫学、新感染症予防法 結核対策、HIV 対策		
6	生活習慣病対策 公衆衛生活動 例	がんの予防、その他生活習慣病予防 精神保健対策、介護保険制度		
7	同上 保健・医療行政	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費		
8	課題研究発表	指定課題による研究発表		

教 科 書	「新体系新体系看護学7 社会保障制度と生活者の健康 公衆衛生学」小野寺伸夫 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	「国民衛生の動向」厚生統計協会 (厚生衛生協会)

授 業 科 目 名	栄 養 学 ( 含 食 品 学 )	単 位 認 定 者	志 田 俊 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心とするが、その進度に応じ課題を提示し自己学習、調査などを実施し理論としての「学」だけでなく実践活動を伴った学習が可能であるような指導方法を実施する。
科 目 の 目 的	「食は命の基本」であるという哲学のもとに食品すなわち栄養素と人体の関連性を充分理解させ健康状態から逸脱している人々に食生活の指導をいかに行うかということを考えるキッカケをつくり、更に将来NSTのメンバーとして必要な基本知識を養成する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	講義内容の理解度を判定するための筆記試験 提出物 100%
関 連 科 目	解剖学 ・ 生化学 生理学 疾病の成り立ち
成 績 評 価 方 法	定期試験、提示された課題についてのレポート 出席状況を総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	栄養学の目的 1	・ 人は何のために食べるか ・ 食べ方には段階がある ・ 食育の必要性	人体の構造と機能 10. 栄養摂取の機構 E. 代謝	
2	栄養素の科学	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割	a) 栄養所要量 b) 基礎代謝	
3		・ 炭水化物について	c) 炭水化物の代謝	
4		・ 単糖類 二糖類 多糖類の構造と解糖作用について	d) 脂肪の代謝	
5		・ 脂質の種類と体内での主たる役割 単純脂質 複合脂質 ステロール化合物 脂肪酸の種類と構造	e) タンパク質の代謝 f) 核酸の代謝	
6		・ 蛋白質の種類と体内での主たる役割 単純蛋白質 複合蛋白質 アミノ酸の種類と性質	g) ビタミン・ミネラル	
7		・ ビタミンの種類と体内での主たる役割 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミンの分類と性質 生理作用について課題提出		
8		・ 課題について自己学習のじかんを取る ( 食品成分表を資料としノートに整理し試験範囲に入れる )		
9		・ ミネラルの種類と体内での主たる役割 体液バランスの講義の後 自己学習		
10		・ ミネラルについての自己学習時間とする		
11		・ 食品の機能について		
12		・ 食品分類の考えかた 基本的な考えかた 実践的な考えかた		
13		・ 食生活の計画		
14		・ 献立と成分表		
15		・ 献立作成の総括・反省		

教 科 書	「五訂増補 食品成分表」(女子栄養大学出版部 出版)
参 考 書	

授業科目名	リハビリテーション概論	単位認定者	松澤 正
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 7 . 5 コマ )	必修・選択	選択

指導方法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学習到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	理学療法概論 リハビリテーション医学
成績評価方法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史		
2		障害論		
3		障害者の心理		
4		リハビリテーションの構成		
5		医学的リハビリテーション		
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方		
7		地域リハビリテーション		
8		まとめ		

教科書	プリント教材を使用する。
参考書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授業科目名	看護学入門	単位認定者	城生弘美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・グループワーク
科目の目的	看護学の入門編として、まず日常生活の中で遭遇する健康障害を例にあげ、どのような根拠に基づき症状緩和の方法を取るか考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。
学習到達目標	1. 看護職の職業に関する理解を深める。 1. 日常生活の中の看護ケアについて考える。 2. 看護学の原典を追求し、看護の歴史について理解する。
関連科目	看護学概論、看護過程論、看護ケア方法論を始めとする看護学全般の基盤となる
成績評価方法	1. 出席状況 2. グループワーク参加度 3. レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	「看護」について	「看護職とは」を考える	基礎看護学 目標1:看護の基本となる概念についての理解を問う。1.看護の基本となる概念 A.a)対象 b)役割 c)機能 社会保障制度と生活者の健康	
2 3	日常生活の中の看護ケアについて	日常的に遭遇する看護ケアについて考える またそのケアの根拠について考える (例:発熱、嘔吐、下痢、便秘、骨折、擦り傷、切り傷、痛み、等)	基礎看護学 目標1:看護の基本となる概念についての理解を問う。1.看護の基本となる概念 B.看護の対象としての人間 a)人間のとらえ方 b)人間と環境 C.人間にとっての健康 a)健康のとらえ方 b)健康に影響を与えるもの D.生活と健康 a)生活のリズムと健康のかかわり b)生活習慣と健康のかかわり c)生活の要素と健康のかかわり(食、排泄、清潔、衣、活動・運動、休息睡眠、性、学習・遊び、仕事、社会活動) d)QOL<クオリティ・オブ・ライフ>	
4 5 6	看護学の原典を探る	ナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を読み、解釈・考察し、看護学の原典について思考を深める (ア)ナイチンゲールの生涯と時代背景 (イ)ナイチンゲールの人柄と功績 (ウ)看護覚え書きから教えられること (エ)医療人としての姿勢について (オ)自分の日常生活と比較して		
7 8	看護職の発展について	日本の看護の歴史についてまとめる		

教科書	フロレンス・ナイチンゲール著「看護覚え書き」(日本看護協会出版会) 「看護学概論」川村佐和子他 編集(メディカ出版)
参考書	増田れい子「看護 ベッドサイドの光景」(岩波新書) 向井承子「看護婦の現場から」(講談社現代新書) 鈴木厚「日本の医療を問いなおすー医師からの提言」(ちくま書房) この他随時紹介する。

授 業 科 目 名	看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護学入門の学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、制度の変化、法律改正、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。
学 習 到 達 目 標	1 . 看護職の専門性、実践科学としての看護、教育制度、健康の捉え方等について理解する。 2 . 法的側面、保健・医療・福祉システム、看護倫理等を学び、社会における看護の役割を考察する。 3 . 主な理論家の構築した看護理論を学び、看護の本質を考える。
関 連 科 目	関連する教養科目 心理学 生命倫理 家族学 医療民俗学 環境論 関連する専門基礎科目 発達心理学 看護学入門 健康管理論 この科目が基盤となる専門科目 専門科目のすべて
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポートと定期試験により評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	看護職の専門性とは	専門職としての看護師について 看護実践のための基準について 看護の歴史(世界)について 21世紀に求められる看護について	基礎看護学 目標 1 .看護の基本となる概念 A .看護の本質 a)対象、b)役割、c)機能 必修問題 4おもな看護活動展開の場と看護機能 D . 関連職種との連携 a) 関連する職種 b)チーム医療 c)看護の役割	
2	看護教育制度 看護実践のための 様々な基準	教育制度の変遷、看護組織について		
3	健康と病気	健康の概念と健康の成立条件および QOL について学ぶ。 自己の健康観を明らかにする。	必修問題 2 .健康と生活 A .生活習慣 a)食事・栄養、b)睡眠、c)運動、d)飲酒、e)喫煙 C . 人間にとっての健康 a)健康の捉え方、b)健康に影響を与えるもの D . 生活と健康 a)生活のリズムと健康のかかわり、b)生活習慣と健康のかかわり、c)生活の要素と健康のかかわり、d) QOL	
4	看護における法的 側面	法的規則・医療事故における法的責任 看護実践における法的責任	必修問題 5 . 保健師助産師看護師法 A . 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務、b)看護師に禁止されている業務、c)守秘義務 d)業務従事者届 社会保障制度と生活者の健康目標 4 B . 保健師助産師看護師法 a)目的・定義、b)免許、 c)業務、d) 守秘義務 B . 看護職員 a) 養成制度、b)就業状況 C . 看護職と関係法規 a)労働基準法、b)労働条件の原則、c)育児休業・介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>、d)看護師等の人材確保の促進に関する法律、 e)医師法、f)薬剤師法、g)	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
5	保健・医療・福祉システム	提供の場・チーム・今後の動向と課題について	<p>診療放射線技師法、h)臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律、i)理学療法</p> <p><b>必修問題</b> 4.主な看護活動展開の場と看護の機能 A.医療施設 a)病院、b)診療所、c)助産所、d)老人保健施設 D関連職種との連携 a)関連する職種 b)チーム医療 c)看護の役割</p> <p>目標3 1.看護の役割と機能を支えるしくみ A.看護活動の場 a)地域における看護活動、b)医療施設における看護活動、c)保健福祉施設における看護活動 B.継続看護 a)施設内から在宅への継続、b)退院計画および退院指導、c)経時的に変化する継続看護</p> <p>目標3 c.保健医療福祉の連携 a)他職種の役割、b)他職種との連携</p>	
6	看護における倫理について	倫理の必要性和課題	<p><b>必修問題</b> 4.看護の倫理 A.基本的人権の擁護 a)個人の尊厳、b)患者の権利、c)自己決定権、d)インフォームドコンセント、e)ノーマライゼーション</p>	
7	看護理論	看護理論の変遷・主な看護理論について	<p><b>基礎看護学</b></p> <p>目標 E.看護倫理 a)患者の権利擁護、b)患者のプライバシー保護、c)看護師の倫理規定、d)職業倫理</p>	
8	看護の対象	統合体としての人間・家族・地域環境等について 学習のまとめレポート	<p><b>必修問題</b></p> <p>1.人間の特性 A.人間と欲求 a)基本的欲求、b)社会的欲求 B.患者の特性 a)QOL、b)患者ニーズ、c)健康に対する意識、d)疾病に対する意識、e)疾病・傷害の受容過程</p> <p>3.患者と家族 a)家族関係、b)疾病が患者・家族に与える心理社会的影響</p> <p><b>基礎看護学</b></p> <p>目標1 1.看護の基本となる概念 B.看護の対象としての人間 a)人間のとらえ方、b)人間と環境</p>	

教科書	「看護学概論」川村佐和子他（メデイカ出版）
参考書	

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者の反応が理解できることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学病院の特徴と役割について理解できる。</li> <li>2. 大学病院組織内における看護部門の位置づけと役割について理解できる。</li> <li>3. 看護部門と他の医療部門との連携について理解できる。</li> <li>4. 病棟の特徴と看護体制について理解できる。</li> <li>5. 入院患者を取り巻く物理的環境・人的環境について把握できる。</li> <li>6. 患者の一日の入院生活について理解できる。</li> <li>7. 提供されている看護援助について、その根拠を考えながら見学することができる。</li> <li>8. 患者の訴えを傾聴し、気持ちを尊重した言動をとることができる。</li> <li>9. 患者との関わりの中から、自己の言動を振り返ることができる。</li> <li>10. 入院生活(闘病生活)に関する患者の反応が理解できる。</li> </ol>
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論の統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる
成 績 評 価 方 法	出席状況(実習態度含む) 実習記録およびレポート 実習反省会での内容

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う。		
	病院実習	病院施設内の見学実習および病棟看護師と行動をともにしながら、入院患者の生活状況を把握したり、コミュニケーションの機会を設け患者の入院生活に関する反応を理解したりする。		
	実習のまとめ	病院実習で学んだことについての報告、レポート作成		

教 科 書	「看護学概論」川村佐和子(メディカ出版) 基礎看護学実習 実習要項
参 考 書	



